

抗 ヒト Siah2 ポリクローナル抗体

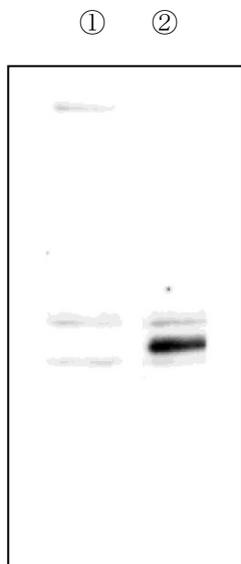
タンパク質が生まれて、死んでいくまでの過程は精密な装置が働いていることが分かってきました。特にユビキチン-プロテオソーム系によるタンパク質の分解制御システムは生体内のあらゆるプロセスに深く関わっています。このプロセスに関与する分子、Siah は、キイロショウジョウバエの発育中の眼における R7 光受容体細胞形成のために必要とされる *Drosophila seven in absentia (Sina)* のホモログで、現在まで 2 つのヒトホモログ (Siah1、Siah2) が報告されています。

Siah は、ある特定のタンパクをユビキチン系へと導くユビキチンリガーゼの一つです。さらに、癌抑制遺伝子 p53 による誘導、脳での高い発現など数々の興味深い特徴を持ちます。また、これまで見出されてきた経路とは異なる経路で、p53 に伴う細胞周期の調節や、アポトーシスへの関与が示唆されており、その機能が注目されています。

Siah2 はメッセンジャーRNA レベルでは嗅覚上皮、網膜、前脳、成長過程の軟骨などに高発現していることが見出されており、今後タンパク質レベルでの発現と機能解析が進むことが期待されます。

本抗体は、タンパク質のターンオーバーと種々の病態との関係を解き明かす研究や、癌の研究において重要な役割を果たすと期待されます。

容量	25 μ g (100 μ L/vial)
形状	ウサギポリクローナル抗体 0.25mg/mL、凍結品
バッファー	PBS [2%ブロッカー(安定化蛋白)、0.1%proclin 含有]
保管方法	-20 $^{\circ}$ C以下 抗体を低濃度にて冷蔵保管されますと、失活する恐れがあります。 融解後は 4 $^{\circ}$ Cで保存し、お早めにご使用下さい。 また凍結融解を繰り返すことは避けて下さい。
製造方法	Siah2 の部分ペプチドを免疫して得られたウサギの抗血清より、ペプチドアフィニティーカラムにて精製。
使用濃度	ウェスタンブロットティング:0.2 μ g/mL



ウェスタンブロットティング

sample : 293 細胞可溶化画分

- ① コントロール
- ② Siah2 遺伝子導入 + MG-132 (分解阻害薬)

提供:

京都大学大学院生命科学研究科 高次脳機能分野

中西 重忠 先生

森吉 弘毅 先生

抗 ヒト Siah2 ポリクローナル抗体

【参考文献】

1. Development ; 117,p1333-1343 (1993)
2. Genes Development; 11,p2701-2714 (1997)
3. Molecular Cell Biol.; 7,p915-926 (2001)
4. Molecular Cell Biol.; 7,p927-936 (2001)
5. Nature Struct. Biol.; 9, p68-75 (2002)

製造元

 株式会社トランスジェニック

〒650-0047 兵庫県神戸市中央区港島南町 7-1-14

TEL: 078-306-0295 FAX:078-306-0296

URL:<http://www.transgenic.co.jp> techstaff@transgenic.co.jp